

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化した場合の意向の確認の結果、「ホームで最期を迎えさせたい」「最期までここで面倒を見て下さい」と答える方が半数以上いた。平成24年5月に1名、12月に1名を看取りました。終末期に入られた時のご家族の複雑な気持ちをひしひしと感じ、悔いのない最期を迎えて頂けるよう支援していく。	終末期に入られた時から看取りを受け入れるまでの複雑に揺れ動く気持ちに寄り添いながら、その人らしい最期を迎えられるように最期まで「生活の質」を大切に支援していく。	<ul style="list-style-type: none"> 必ず迎える「死」について、早い段階からご家族と話し合う機会をもち、継続的な意思確認を行っていく。 職員が安心して支援できるよう「死の前後に見られる身体の変化」等、看取りについての研修を実施していく。 入居時よりその人らしい環境作りを行い、終末期はご家族や他入居者とゆっくり過ごせるような環境作りに努める。 	12か月
2	41	食事中にむせたり、うまく飲み込めない方もみられてきている。入居者の皆さまにいつまでも美味しく食べることができ、快適な食生活を送っていただけるように支援していく。	いつまでも美味しく安全に食事ができるよう口腔ケアの継続と充実を図る。また、口腔介護リハビリに取り組む。(嚥下機能の維持・咀嚼機能の維持)	<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士により定期的な口腔ケアを行う。 歯科衛生士より口腔ケアの指導を受け、日常のケアを充実させていく。 一人ひとりの状態を把握し、本人に合った食事形態・食事中の姿勢・食事介助の方法・食器などを提供できるよう口腔介護リハビリに取り組む。 	12か月
3	13	様々な場面で適切なコミュニケーションを取ることができるようになる。 <ul style="list-style-type: none"> 入居者の不穏時の関わり方 意思疎通が難しい方、また、無反応・無表情な方 被害妄想の強い方 	感情やプライドに配慮しながら、一人ひとりに合ったコミュニケーションをとり、安心した穏やかな生活を送っていただく。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の「病気の形」「病気の程度と症状」等の研修を行う。 一人ひとりの生活スタイル・生活習慣・性格等、その人自身を知る。 コミュニケーション技法の研修を行う。(言葉遣い・目線・視線・位置・言葉の早さ・トーン等) 	12か月
4					か月
5					か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。